この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no.51

桜堤二丁目付近

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この作品は、初冬のある日、桜堤二丁目の曙橋（あけぼの）の上に場所を定め、玉川上水の上流を見ながら描いたものである。この付近は、我が家から近いこともあって、見なれた風景の一つだが、この季節の情景が一年間で一番美しいのではないかと思っている。

いつも、街並みや建物などを描いている私にとって、今回の水辺の風景は、数少ない作品で、格別な思いで描いてみた。

流れの両岸に茂る草木は、江戸時代にこの水路を私財を投じて建設した玉川兄弟の労苦を称（たた）えるかのように、美しい彩（いろどり）を川面に映し出しており、時折橋を渡る人々の目を楽しませている。

絵が仕上がったら、近くにある喫茶店で、好きなコーヒーでも飲みながら、私にとって至福のひと時を過ごそうと思っている。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすかかずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。